



以茶積風塵、
以茶雅心境。
茶を以て杞憂を吹き飛ばし、
茶を以て心を優雅にする。

作 小田純也



チャイニーズティーマスター 小田純也による世界中国茶紀行

Vol.18 伝説の大紅袍、岩茶の世界

写真上は中国福建省の武夷山(ぶいさん)を流れる九曲溪(きゅうきょくけい)から望む玉女峰。垂直に切りたつ峰の正体は、実は巨大な岩。明け方には霧がかかり、まるで山水画のような世界。

今回は中国福建省の武夷山を舞台に、かつての皇帝献上茶「大紅袍(だいこうほう)」についてご紹介します。

悠久なる岩茶の世界を訪ねて



中国茶の産地として古い歴史をもつ福建省は中国大陸の南東に位置しています。北は浙江省、南は広東省、西は江西省、海を隔てて台湾に接しています。

福建省は烏龍茶づくりが特に盛んな地域です。そのため福建省をさらに2つに大別して表現されることがあります。『北に岩茶、南に鉄観音』と。武夷山は北に位置しています。

武夷山までは上海から飛行機で2時間程の所要時間。到着後は車の手配から始まります。これが私流の茶旅。車の確保はとても重要なことです。

今回は二輪車の青年ドライバーと意気投合、武夷山滞在中の価格交渉がスムーズに成立しました！二輪車は渋滞の心配がなく、山道の移動が便利です。武夷山には珍しい動植物、昆虫、爬虫類、鳥類が生息していて、それらを目当てに多くの観光客が海外から訪れると聞きましたので、早速私も博物館に案内していただくことにしました。道中、武夷山市街の所々で目にする「大紅袍」の文字に、いよいよ胸が高鳴ります。

広大な中国大陸は地域によって様々な特色があります。まずはその土地の歴史や文化を学ぶことで中国茶文化の勉強につなげていきたいと思えます。

雄大な自然が今なお残る、神秘的な武夷山

武夷山は1999年にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）より「自然遺産」と「文化遺産」の両方を兼ね備える「世界複合遺産」に登録されました。

自然遺産は、武夷山が太古の地殻変動によって形成された岩々や溪流からなる中国有数の景勝地であることや、豊かな自然環境が現存する生物多様性模式標本の聖地であることです。

（原生林では新種・希少性・絶滅危惧種の生物が生息している。武夷山の複雑な地形により、一部の生物が太古に絶滅せずそのまま生息し続けたことで、中国固有種が生息できたという話を聞いたことがある）

（写真右=岩を掘った800段の石段を登ると武夷山第一の景勝地と称えられる天游峰から九曲溪を一望できる）



文化遺産は、宋代(960-1279)に誕生した朱子学の開祖 朱熹 (1130-1200) が武夷山に住み、武夷山を拠点に講学が行われていたことや、武夷山の麓で紀元前の中国古代遺跡が発掘されたことです。

（写真右 = 朱熹が講学を行った武夷精舎[創建 1183]。のちの紫陽書院）

（朱子学とは朱熹が大成した新しい中国儒学思想。日本では江戸時代に正式に採用された）

そして武夷山には古くから野生のお茶の樹が生息しています。

この地に伝わる「お茶の文化」も世界文化遺産の一つです。



断崖絶壁の岩壁に無数の穴があります(写真右)。

その中から船の形をした棺が幾つも発見されました。中には人の骨も。

古代人の墓とも考えられる棺は、どのようにして断崖絶壁の穴まで運ばれたのでしょうか・・・。



大紅袍、伝説の皇帝献上茶



写真左の崖の中心部をご覧ください。

こちらがかつての皇帝献上茶「大紅袍の原木」です。断崖絶壁の岩壁に根を張っています。

昔々、猿が崖をよじ登って茶摘みをしてくれて、僧侶がお茶をつくったというエピソードが今に伝わります。

武夷山の類まれなる地形は、恐竜が栄えていた時代（白亜紀 1 億 4500 万年前 - 6600 万年前）の地殻変動によって海底から隆起したもので、目の前に巨大な岩が天高くそびえ立つ様は圧巻！珍しい形の奇岩怪石や岩峰は「三十六峰九十九岩」と呼ばれています。

この地は古来より碧い(あおい)川と、丹い(あかい)岩肌を総称して「碧水丹山」と呼ばれてきました。(海底から隆起した岩々は長い年月とともに風化。地層に含まれる鉄分が酸化して岩肌を赤くする)午前中に視界を遮っていた霧が午後になると岩壁を滴り始めます。ポタポタと音が聞こえる場合もあります。お茶の樹は岩場に生育していますから、根は太古の岩に含まれるミネラルをたっぷり吸収していることでしょう。



岩場に自生する茶樹



岩壁に彫られた「岩韻」の文字



くちばしのような鷹嘴岩

まるで万物創世記の大地と一体化のお茶の樹。

武夷山で採れるお茶を飲むと、その香りは五感を貫き、味わいは力強く、長い余韻は心にまで沁みわたり、身体が温まる。古くから人々は「武夷岩茶の岩韻」と呼びました。

(大紅袍の名の由来については諸説があります)

昔、ある一人の書生が科挙を受けるため都に向かっていました。途中、武夷山を通りかかったところでお腹が痛くなり病に倒れました。幸いにもお寺の住職が見つけて助けてくれました。



住職は茶を淹れて飲ませると、数日のうちに回復して元気になりました。その後、書生は無事に受験をすることができて、合格して念願の官僚になりました。首席で合格したので「状元」の称号を授与され、彼の才能を見込んだ皇帝は皇女の婿にしました。(科挙とは官僚登用の試験のこと)

状元となった彼はあのお礼を言うため、武夷山のお寺の住職に会いに行きました。

あの時飲ませてもらった薬は何かと尋ねたら「あの崖に生える茶です」と教えてもらいました。

ある時、皇后が病になりました。お腹の具合がひどく、皇帝は医者を呼びましたが治らず、効く薬もありませんでした。皇帝は役人たちに良薬を探すよう命じます。状元は昔、武夷山のお寺で病が治ったことを思い出し、住職から分けてもらった茶を皇帝に献上しました。

皇帝は皇后に飲ませたところ、皇后の病は良くなりました。

皇帝は大喜びし、状元を武夷山に派遣して、お礼に(※)大紅袍を茶樹に贈りました。状元は皇帝に代わって大紅袍を茶樹に被せました。

以来、人々はそのお茶を「大紅袍」と呼び、毎年、皇帝に献上されました。

【(※) 大紅袍 = (赤いマント) 大臣のみが羽織ることが許されていた】

以茶積風塵、以茶雅心境。



遙か遠い昔、武夷山は川の氾濫の多い土地でした。

大王という名の青年は武夷山に暮らす人々のために土地を開拓しました。川を掘り、山を造り、大地を耕し、花を植え、武夷山の人々はとても暮らしやすくなりました。

ある日、天上の玉女が地上を覗くと、春の茶摘みを祝う茶宴が盛大に開かれていました。茶の香りが良く、歌声が聞こえてきました。

玉女は雲に乗って地上に舞い降りました。

緑が豊かで、水が清らかで、生命に満ち溢れたこの世界はなんと美しいのでしょうか！玉女は地上がとても気に入って、人間の姿になって、しばらく地上で過ごすことにしました。



大王峰



玉女峰



鉄板岩



鏡岩

そしてある日、大王と玉女は出会い、恋に落ちたのです。

天上では娘の玉女が戻ってこないで玉帝は探し始めました。玉女に密かな思いを寄せていた鉄板鬼は怒りました。大王と玉女の2人は玉帝の搜索から逃げようとします。

いよいよ、玉帝は鉄板鬼を地上に送り込むことに。

大王と玉女は結婚することを誓い合います。

いつまで経っても玉女が戻ってこようとしないので、ついに玉帝は大王と玉女の2人を岩の姿に変えました。

鉄板鬼は2人が会うことができないように、自ら2人の間を遮る高く大きな岩になりました。

.........................

大王と玉女。

2人が結ばれる日は来るのだろうか。

大王峰と玉女峰から程遠くない位置の鏡岩。唯一、大王と玉女の2人がお互いの姿を見ることができるという。

私は大紅袍を淹れる時、いつも武夷山のあの美しい光景を思い浮かべては、2人のことを想う。

それが私にとっての岩韻かもしれない。

(撮影 / 文 小田純也)

(参考文献)

中国茶藝師 培訓教程 中国労働社会保障出版社

武夷茶経 蕭天喜主編 科学出版社

武夷仙凡界 北京電視藝術中心. 中央電視台. 福建電視台

武夷山導遊図冊 高 洪

中国料理 香桃

レストランのご予約・お問い合わせ

TEL 06-6343-7020 (直通)

営業時間 10:00 a.m. ~ 7:00 p.m.

rc.osarz.restaurant.rsv@ritzcarlton.com

ザ・リッツ・カールトン大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 5 番 25 号